

全校児童のみなさん、おはようございます。

今日は、姫島小学校で1年に一度おこなっている「慰靈祭」の日ですので、校長先生から「慰靈祭」についてみなさんに知ってもらうためのお話をしたいと思います。

毎年、同じ話をしています。

姫島小学校のみんなで、1年に1度、確かめる機会にしたいです。

「慰靈祭」というのは、とても難しい言葉ですが、みんなで静かに手を合わせたり・静かに目をつむったりして、亡くなった方のたましいに、お祈りする機会です。怖かったですね・つらかったでしょうという気持ちを込めて、お祈りをする機会です。

今から89年前、昭和9年9月21日午前8時頃、おそろしい猛烈な勢力の台風が、この姫島地区の近くを通り過ぎました。「室戸台風」といいます。あまりの猛烈な風と、海があふれる高潮で、この姫島地区に大きな被害が発生しました。

当時の姫島小学校の校舎は、頑丈なコンクリートでできた校舎ではなく木でできた校舎だったので、あまりの猛烈な風にあっという間にメキメキと倒れてしまったそうです。そして、校舎に避難していた先生と子どもたち13人が下敷きになって亡くなってしまいました。きっと、とても怖かったと思います。きっと、とてもつらかったと思います。

それでは今から、静かに目をつむって、この台風で亡くなった方に、怖かったですね・つらかったでしょうという気持ちを込めて、お祈りをしたいと思います。「黙とう」というお祈りです。校長先生が「黙とうはじめ」といたら目をつむってお祈りしてください。校長先生が「黙とうやめ」といたら目を開けてお祈りをやめてください。

毎年、大きな台風がやってきて、日本のあちこちに被害をもたらします。

いつ再び、この姫島地区に大きな台風がやってきても命を守れるように、あるいは、地震や津波など、他の災害からも命を守れるように、児童のみなさん、しっかり勉強して備えておきましょう。

以上で校長先生の「慰靈祭」のお話は終わります。